

すこやか11月号

第206号
月号

SANDA CITY HOSPITAL PRESS SUKOYAKA



糖尿病の治療について

内科 副部長 佐久間 陽子

- 日本内科学会認定内科医
- 日本内分泌学会専門医
- 日本内科学会認定総合内科専門医
- 日本糖尿病学会専門医

はじめに

糖尿病は慢性疾患であり、3大合併症（神経障害、網膜症、腎症）のほかに、高血圧症、脂質異常症、肥満症、脂肪肝、虚血性心疾患や脳梗塞などの動脈硬化性疾患、がん、認知症、歯周病など合併疾患も多岐にわたります。

糖尿病診療では、個々の生活環境や年齢を考慮し、合併症の発症・重症化を防ぎ、病期に合った診療を行います。薬物治療だけでなく、適正な体重管理を含む生活習慣の修正を並行して行うことがとても有効です。自覚症状がなくても治療を継続することは必須です。そのために、多職種の糖尿病療養指導士が診療に関わり、糖尿病治療で最も重要となる自己管理を指導し、セルフケアを支援します。

当院の取り組み

当院には糖尿病療養指導士9名（うち糖尿病看護認定看護師1名）が在籍し、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、検査技師からなるチームで治療に取り組んでいます。

定期的に病院内の講堂で糖尿病教室を開催しています。平成30年度は年4回、形成外科、脳神経外科、眼科、糖尿病内分泌内科の医師が基礎知識を担当し、看護師によるフットケア、薬剤師による薬物療法、管理栄養士による食事療法、理学療法士による運動療法、検査技師による各種検査の説明など、糖尿病の知識を一通り解説しています（写真、表）。世界

糖尿病デーの前後には時間を拡大した講座や血糖測定を行うイベントを開催しています（表）。また、4、8、15日間の3種類の教育入院を、前述のチーム医療により行っています。血糖コントロールがうまくいかない、合併症が出現・悪化してきた、低血糖や高血糖があるという方々には必要・有用な機会と考えます。

かかりつけ医に通院しながら、当院の糖尿病教室や教育入院に参加し、よりよい血糖コントロールを目指していただきたいです。

新規の取り組み

平成30年の6月から糖尿病透析予防指導を開始しました。医師・管理栄養士・看護師から個別療養指導を行っています。糖尿病性腎症重症化予防のため、透析に至る方を少しでも減らすための新たな取り組みです。



写真 糖尿病教室の風景

表 平成30年度における今後の講座

開催講座	日程	時間	場所
糖尿病教室	平成30年12月12日(水)	12:00 ~ 13:00	三田市民病院 会議室棟 1階 講堂
	平成31年 3月13日(水)		
糖尿病デーイベント	平成30年11月14日(水)	13:00 ~ 15:00	

※いずれも無料で申し込みは必要ありません。当日直接お越しください。



看護部からのメッセージ

副院長兼統括看護部長 中屋ひとみ



三田市民病院看護部の活動を紹介させていただきます。我々看護職は看護部理念である『「質の高い看護」「信頼される看護」』を提供するべく、日々研鑽しています。特に阪神北医療圏で急性期医療を担っていることを自覚し、病院の使命でもある「断らない救急」を目指しています。

看護部では、病院内の看護（外来、検査部門、病棟）、患者会（乳がんなど）、マタニティ教室・両親学級、BLS（一次救命処置）講習に留まらず、地域へは三田市休日応急診療センター、三田市立ひまわり特別支援学校へ看護管理者を送り三田市の保健・健康、看護の支援を行政と連携して行っています。

また、高校生を対象にふれあい看護体験や看護師・助産師を目指すための出前授業、看護学生には実習受け入れやインターンシップ、同じ看護職へは技術練習などの復職支援、地域の他施設や訪問看護師を対象にスペシャリストによる研修会や技術支援などを実施し、多様なニーズに応えて地域看護の質向上に貢献しています。

看護は目に見えにくく、成果として「これ」と指し示すことは難しいのですが、24時間365日、途切れることなく看護を必要とされる方のために誠実に多くの技術を提供しています。今後も各自成長を進め安心・安全な看護をお届けできる存在でありたいと願っています。



医療安全の取り組み

医療安全管理室

当院では、医療安全の必要性・重要性を病院全体及び職員各自の課題と認識し、安全な医療の提供に努めています。そのために、医療安全委員会をはじめとする、多職種から構成される協議体で決定された方針に基づき、下記の医療安全活動に積極的に取り組んでいます。

(1) インシデント・アクシデント報告

- ①レポートシステムを導入し、インシデント（ヒヤリ、ハットしたこと）やアクシデントの集計・評価分析結果を職員間で共有しています。
- ②部署や各委員会で討議し、当院の状況に即した再発防止策を立て、必要時にはマニュアルの修正・新規作成や物品の見直しなどを行っています。
- ③医療安全の最新情報や注意喚起文（医療安全レターなど）を発信しています（写真1）。

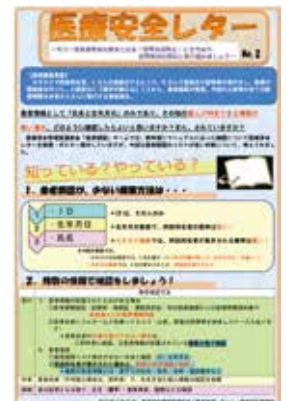


写真1
医療安全レター



写真2 全職員対象の研修

(2) 研修・ラウンド

- ①院内ラウンドや全職員対象の研修の他、部門や部署主催の研修を実施しています（写真2）。
- ②平成30年度より地域連携病院間の相互ラウンドが開始となり、他の医療施設からの評価を通して、医療安全の質の向上を目指しています。



今年も「ふれあい看護体験」を開催しました

看護課長 藤原 豊美 勝賀野 真紀

今年（平成30年）も「ふれあい看護体験」を開催しました。

この「ふれあい看護体験」は、看護師やリハビリテーション技師などの医療職に進むことを考えている三田市内の高校3年生が、実際に業務の体験をするものです。仕事への理解を深め、医療職へ進む気持ちを再確認し、学習意欲を向上させることを目的に開催しています。今年は、8月1～3日に実施し、リハビリテーション技師体験に6名、看護体験には2日間で26名と多数の参加がありました。

リハビリテーション技師体験では、理学療法・作業療法・言語療法についての説明や実際の見学、機器の体験、患者さんとの交流（写真1）を行い、「それぞれの業種について理解を深め、医療職へのやりがいを感じられた」などの感想がありました。

看護体験では、足浴・手浴・洗髪・シーツ交換や車椅子搬送など、日頃経験しない体験をしていただきました（写真2～4）。「他人へのケアは自分じゃないから難しい」と言いながら、精一杯チャレンジする姿に、直接患者さんから「頑張ってるね」、「ありがとう」などの言葉をいただきました。患者さんからの感謝の言葉に感動し、「体験を通して夢である看護師への道へ、より一層思いが強くなりました」、「看護師になるために一生懸命勉強に頑張ります」などの感想が聞かれました。

看護師を含め医療職不足が深刻化する中で、「ふれあい看護体験」を通して未来の医療職・看護職を目指すきっかけを作ることができたのではないかと思います。今後も、次の世代へ理解の輪を広げられ、私たちの仕事を知っていただけるイベントを開催していきたいと思っています。



写真1
リハビリ中の患者さんとの交流



写真2
初めて患者さんの足浴をしました



写真3
初めて患者さんの洗髪をしました

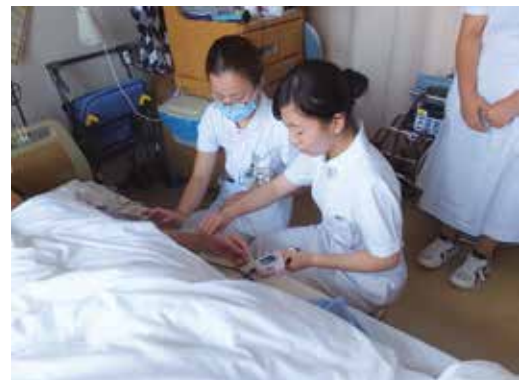


写真4
初めて患者さんの血圧測定をしました



看護部インターンシップについて

教育担当看護課長 左 雅美

看護部では、看護学生を対象にさまざまなイベントを行っています。なかでも、最も人気のあるイベントが、インターンシップです。

インターンシップは3年前から開催していますが、平成29年度より2～3年目の看護師が中心になって企画・運営を行っています。「看護学生の皆さんに少しでも三田市民病院の雰囲気を知ってもらおう」という思いから始めました。当看護部が行うインターンシップの特徴は、新人看護師研修体験ができることです。午前中は病棟で看護師と一緒に患者さんへのケアを体験し、看護師の仕事について担当者から説明を聞きます。午後からは研修で使用する模擬の腕や人形を使って、採血や点滴などの演習を行います。このときの指導もすべて2～3年目の看護師が担当します。最後にお茶やお菓子を囲んで先輩看護師との茶話会を行い、国家試験の勉強方法や就職してからの生活など、各自が気になること・心配なことの質問の時間を設けています。年に3回開催していますが、毎回10名前後の看護学生が参加しています。

実際にインターンシップに参加し、その後当院に就職をしたスタッフもいます。参加者が少しでも三田市民病院に興味を持ち、当院が就職先候補の1つになることを望みながら取り組んでいます。



赤ちゃんを抱いてみました



看護師の仕事について聞いています



点滴の準備を体験しています



口と鼻から痰を吸引する体験をしています

Information

看護職の負担軽減への取り組み

看護部長 梅田 智子

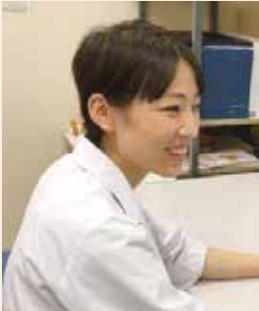
医療環境の変化に伴い看護職に求められる役割と業務量が増加し煩雑化する中で、その負担を軽減し看護職本来の役割を發揮するためには、看護補助者と協働して業務改善を推進することが必須です。当院では看護職・看護補助者とも時差出勤を活用し、ケアが途切れないよう協力して患者さんの支援にあたっています。また看護補助者による必要事項の入力などの事務作業も開始し看護職との協働を進めています。



看護補助者との協働

医師からのメッセージ

日々の診療に励む医師から、「すこやか」読者の皆さんへのメッセージをお届けします。



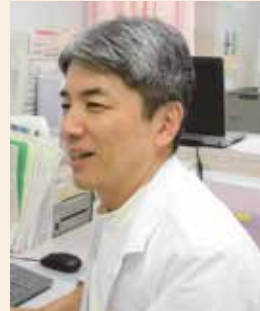
さとう さき

佐藤 沙貴

- 診療科 産婦人科
- 専門分野 産科、婦人科全般

message

赴任して2年になります。産科では主に妊婦検診を、婦人科では月経困難症や過多月経、月経不順、更年期障害などに対し、診断から治療まで幅広く行っています。また、同じ女性として患者さんの心に寄り添った診療を心がけています。お困りの際はお気軽にご受診ください。



さみぞ まさひろ

佐溝 政広

- 診療科 外科・消化器外科
- 専門分野 外科・消化器外科全般
- 資格 日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

message

消化器外科着任後2年がたち、安全で確実な手術を徹底してまいりました。おかげさまで手術件数も増加し、実績も安定しています。今後も現状に満足することなく、ダヴィンチなど新しい手術技術の導入や神戸大学などとの連携の強化にも努めていきたいと考えております。これからも信頼される外科を目指してまいります。

AED(自動体外式除細器)の使い方

臨床工学科

田中 敬士

AEDは、自動的に患者さんの心電図を解析して、心室細動や心室頻拍などの致死的不整脈が検出された場合に、電気ショックを与え心臓を正常な状態に戻す装置です。電源を入れると流れる使い方のアナウンスに従い、下記のように操作します。一般の方でも簡単に使用できます。

操作1 電源を入れる



※機種によって成人・小児切替スイッチが付いています。未就学児には小児で使用します。

操作2 電極パッドを胸に貼付ける



※胸部が濡れている場合は拭き取ってから貼付けます。その後心電図解析を行うので解析中は患者に触れないでください。

操作3 電気ショック



※患者に誰も触れていないことを確認してからショックボタンを押します。

⇒
アナウンスの指示があった場合

AEDは胸骨圧迫と併用して行うことが重要です。AEDでの心電図解析や電気ショックなどによる胸骨圧迫の中断は最小限にしてください。

近隣医療機関のご紹介

市民病院は地域医療連携を推進します。かかりつけ医を持ちましょう！



秋久医院 秋久 理眞 院長

当院は、糖尿病・高血圧・脂質異常症・痛風などの生活習慣病を中心に、地域の皆様のかかりつけ医として診療を行っています。特に、専門の糖尿病については各々の患者様にとって最適の治療が提供できることをめざしています。

高度な医療機関での検査・治療が必要な場合には、三田市民病院などの地域の中核病院と連携して診療にあたっています。また、外来通院が困難な方や在宅診療をご希望の方には往診・訪問診療を行っています。なお、土曜日は第1土曜日のみ診療を行っています。



〒669-1311 三田市加茂1086-3

電話：079-567-0020

診察科目：内科、糖尿病内科

休診日：日曜・祝日、月曜日の午前、第2～5土曜日

HP：「三田市 秋久医院」で検索してください

診療時間	午前：9:00~12:00	午後：4:30~6:30					
	月	火	水	木	金	土	
午前	×	○	○	○	○	第1のみ	
午後	3:00~6:30	○	○	○	○	×	

Introduction of new physician

新任医師紹介

10月に新しく迎えた医師を紹介します。よろしくお祈いします。



形成外科
なかやま まき
医長 中山 真紀

出身地 大阪府

趣味 パン屋めぐり、山歩き

10月より形成外科に赴任しました中山と申します。地域の皆様のお役にたてるよう優しく丁寧な診療を心がけております。よろしくお祈い申し上げます。



整形外科
どうがき よしひろ
医長 堂垣 佳宏

出身地 兵庫県

趣味 バドミントン、ゲーム、お酒

10月から赴任しました堂垣です。地元三田学園出身です。脊椎と外傷を主に担当します。良い診療には診断と、患者さんの疾患に関する理解が重要と考え、わかりやすい説明を心がけています。よろしくお祈いします。



循環器内科
かしお かずひろ
副医長 榎尾 和洋

出身地 兵庫県

趣味 卓球、ドラム

10月より循環器内科に赴任しました榎尾と申します。三田で働くのはほぼ10年ぶりとなりますが、頑張らせていただきます。

編集後記

今年は大雨や相次ぐ台風の上陸、地震など自然災害が多かったように思います。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

まもなく短い秋が終わり、体調を崩しやすい季節となります。秋の味覚を上手に取り入れて免疫力を高め、寒さの厳しい冬に備えましょう。

すこやか(第206号)
平成30年11月発行

【編集・発行】
三田市民病院
学術広報推進委員会

 三田市民病院

〒669-1321 三田市けやき台3丁目1番地1
TEL.079-565-8000 (代表)
<http://www.hospital.sanda.hyogo.jp/>